

第3号
2010.3月

きずな

発行者：湘南記念病院 広報委員会
〒248-0027 鎌倉市笛田2-2-60
TEL.0467-32-3456
FAX.0467-32-6363
http://www.syonankinenhp.or.jp
E-mail: info@syonankinenhp.or.jp

湘南記念病院ではさまざまな職種の職員が働いています。それぞれが多職種医療チームの一員として協働し、患者様に対し
てより良い治療の実践に努めております。

今回の特集は、「栄養科」「診療科（外科）」2部門にスポットをあて、活動内容をご紹介します。

特集1 こんにちは、栄養科です

入院患者様にとって食事は治療の一環であり、楽しみの一つでもあると考えております。

栄養科はチーム医療の一員として、「食」を通して患者様の健康回復に貢献できるよう努めています。

管理栄養士は、患者様の病態にあった適切なお食事を医師の指示に従って提供し、疾病の治癒促進を図る重要な役割を担っていることや、食事療法が必要な入院・外来患者様に対しての栄養食事指導や特定保健指導を行うことについてご存知の方も多いと思いますが、今回、その他の当院管理栄養士の活動をご紹介します！

NST活動

患者さまの栄養管理を医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・リハビリスタッフ・医事課スタッフとチームで行っております。管理栄養士は、NST回診にも参加し、対象となった患者さまの身体測定、栄養補給法に合わせた提供内容の提案などをおこなっております。



当院の行事食

「入院中はお食事が唯一の楽しみ」とお話される患者様が多いです。少しでもお食事を楽しんでいただけるよう、月に一回行事食の提供をしております。

3月はひな祭り!!

食物が食べにくい、うまく飲み込めない患者様でも安心して召し上がれるよう、お食事の工夫もおこなっております。



常食



きざみ食



ミキサー食

乳がんセンター試食会

乳がんの治療中は、食欲不振、口内炎、味覚障害など、食事に関する副作用に悩まされることが多いです。その際のお食事対策のご提案・レシピ紹介・実食していただく「試食会」を7月と10月に開催しました。

参加者からは「この食べ方を知ることができて良かった」「今後も続けてください」などの声をいただいております。また「このような機会を治療前の心得としてもっていたかった」などのご意見もあり、闘病生活を送られる方へタイミングよく効率よく情報提供が図れるよう、今後検討して参ります。

しかし「同じ闘病生活を送っている人との会食が何よりのごちそうだ」との感想が多数で、今後とも楽しい場となるよう企画していきたいと思っております。

ちなみにご好評いただいたメニューは、「おすすめレシピ」としてセンターに配布及びHPに掲載しておりますので、どうぞご覧下さい。



試食会より ~グリンピーススープ~

「グリンピースが苦手なのにこれは飲める」「のどごしがよい」と好評でした。

ちなみに今回は冷製にして試食しました。それもオススメです!!

用意するもの（二人分）

冷凍グリンピース	200g	牛乳	150cc
水	150cc	コンソメ	小さじ2
こしょう	少々		

作り方

- ①グリンピースを水で煮る
- ②コンソメ、こしょうを加える
- ③火からおろし牛乳を加え、ジューサーにかける
- ④口当たりが気になるようだったら、網でこし、お好みで冷蔵庫で冷やす



特集2

外科診療とは？



佐伯知行 先生

外科はどのような診療をする科なのでしょうか。
佐伯知行先生にお答えを頂きました。



外科という診療科は、比較的広い守備範囲を持ち、消化器（胃腸・肝胆膵）、乳腺、内分泌、呼吸器、心臓血管などに分類されます。その他ヘルニア（脱腸）や外傷、皮膚や爪の疾患などにも対応します。

具体的な疾患対象としては、乳腺の病気、胃腸の病気（胃がん・大腸がん・胃潰瘍・ポリープ・食道炎・腸炎・炎症性腸疾患・過敏性腸症候群・痔・ピロリ菌）胆石や胆のうポリープ、腸閉塞、急性虫垂炎、大腸憩室炎、ヘルニア（脱腸）、皮膚の怪我、やけど、とげ、巻き爪、ウオノメ、イボ、粉瘤、脂肪腫などです。

ふくくうきょう

腹腔鏡手術とは

従来は大きく皮膚を開いてお腹を手術をしていましたが、腹腔鏡という内視鏡の一種をお腹に差込み器械を使って手術を行う方法です。

傷が小さい為、術後の痛みが少なく、絶食期間や入院期間が短くて済むなどのメリットがあります。

当院では胆のう手術に腹腔鏡手術を行います。



けがの治療

擦り傷や挫傷といった、皮膚の一部がなくなってしまうようなけがの治療が変わりつつあります。

傷は消毒し、乾かさなければ（かさぶたにする）といった概念がありましたが、最近では傷を消毒しない、乾かさず潤いを保つ方法が主流になりつつあります。けがで受診した際、細菌感染がなければ、必ずしも消毒をしない場合があります。

新しい皮膚が早く再生する環境を作れるよう、状況に応じて治療・アドバイスをさせていただきます。



がんの治療

当院ではがん検診や内視鏡検査設備を活用し、がんの早期発見・早期治療を目指しています。

一部の腫瘍を除く多くのがんは、取れるものは切除することが望ましいと考えられます。

胃や大腸のがんについていえば、早期に発見され内視鏡（胃カメラ・大腸カメラ）により、切除できれば苦痛も少なく、傷が残ることもありません。

内視鏡で切除できないものについては開腹手術で切除を行います。

抗がん剤を用いた化学療法を行うこともあります。新しい治療法を積極的に取り入れ、最大限の治療が出来るよう心がけています。



緩和治療

がんをはじめとする悪性腫瘍で積極的治療に限界が生じてしまった場合、病気に伴う苦痛や生活の不自由さを軽くすることが望まれます。このような治療を緩和治療といいます。

痛みを取り、水分や栄養補給といった治療を行いますが、場合により症状を軽くする為の手術や抗がん剤の投与を行うこともあります。

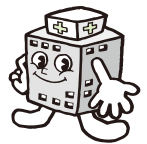
入院だけでなく、外来通院でも出来る限り対応します。がんに対する不安などもお話をしながら取り除いていきます。

がんを治療するのではなく、患者さんご自身および、生活環境全体を治療するのが緩和治療です。



部門紹介

当院の各部署・部門を紹介します。



検査科

これより当院で実施している検査とその意義について簡単に述べさせていただきます。

当検査科で実施している検査は、『検体検査』と『生理機能検査』に大別されます。

『検体検査』は、患者様の体から血液や尿などを採取して様々な分析を行うことで、当院では、生化学検査・血液検査・一般検査・病理検査・輸血検査などを実施しています。

※外部精度管理調査参加や内部精度管理を行っています。常に正確な結果を迅速（診療前検査では、30～40分以内）に提供できるように努めています。

『生理機能検査』は、患者様の体に直接触れて体の中の状況を探る検査で、当院では、心電図検査・超音波検査・呼吸機能検査・睡眠時無呼吸検査等を行っています。

その他外来採血業務を行っています。

検 体 検 査	生化学検査	最新の分析機を用いて、血液中の成分を分析し、どの臓器にどのような異常が生じているかを間接的に調べます。 糖代謝（糖尿病の診断）→血糖・ヘモグロビンA1cなど。 脂質代謝（動脈硬化の状態）→総コレステロール・悪玉(LDL)・善玉(HDL)・中性脂肪など。 腎機能（代謝物質の体外への排出状況）→尿素窒素・クレアチニン・尿酸 肝機能（肝障害の程度）→総蛋白・アルブミン・GOT・GPT・γ-GTPなど 胆道系（胆汁の流れ）→ビリルビン・ALPなど 膵機能（膵臓の状態）→AMY・尿中AMY 筋肉系（骨格筋や心筋の状態）→クレアチニンキナーゼ・LDHなど 電解質（体の水分バランス）→Na・K・Cl 炎症マーカー（炎症の度合い）→CRP 血液薬物濃度（薬量の程度）→ジゴキシン
	血液検査	貧血・感染・白血病などを診断する為、血液中の赤血球・白血球・血小板の数を測定します。
	一般検査	尿中に糖やタンパクなどが出ているか、尿の通り道で炎症や出血が起きているか、精子の運動率・数などを顕微鏡下で調べます。
	病理検査	生検（胃カメラで取ったポリープ等）材料や手術材料から標本を作製し、良悪性の判断をします。 手術中に採取された病変の一部を20分程度で判定し、方針や範囲を決定することも可能です。（術中迅速病理診断） 痰・尿から得られた細胞や、子宮から擦り取った細胞、乳腺に細い針を刺して吸引した細胞を顕微鏡で調べます。最終判定は病理医が行います。
	輸血検査	安全な輸血を行う為に患者様の血液型を調べ、血液製剤との適合性を調べます。
生 理 機 能 検 査	迅速キット検査	インフルエンザA/B抗原・A群溶連菌検査・乳汁分泌液中CEAなどを簡易キット検査で実施しています。
	心電図検査	胸・手足に電極を付けて実施します（安静心電図） 階段を昇降し心臓に負荷をかけて変化があるかどうかを調べる負荷心電図、24時間心電図を記録するホルター心電図、24時間血圧測定なども実施しています。
	超音波検査	超音波を利用して人体の内面を検査する方法で、腹部・心臓・乳腺・甲状腺・頸動脈などの異常を調べます。 ゼリーを体に塗って空気を遮断し、深触子（プローブ）をあてて行います。
	呼吸機能検査	マウスピースの管を口にくわえ、鼻にクリップし、お口だけで呼吸し、肺の大きさや気道の異常を調べる検査です。
	睡眠時無呼吸検査	自宅に持ち帰って行う簡易検査と、睡眠の質まで評価できる一泊入院精密検査を実施しています。

私達臨床検査スタッフは、日常診療をはじめ二次救急に対応するため、24時間オンコール体制をとっております。

またさらに質の高い検査を、かつ安心して療養していただけるよう院内の委員会（感染対策、医療安全、栄養サポート等）で積極的に活動しています。

不明な点がございましたら、採血室・検査室のスタッフへお気軽にお声を掛けてください。



血液検体検査器機



生理機能検査

治験管理室

新しい薬がどのように誕生しているか知っていますか？

まず、製薬会社の研究者や医師が「病気の原因」について詳しく研究し、「くすりのもと」となりそうな物質を探します。研究・開発がスタートし、いくつものふるいをくぐり抜けたものだけがクスリになります。

ひとつのクスリが生まれるまでにかかる時間は10～20年。開発されるもののうち、実際にクスリになる確率はおおよそ1万分の1と言われています。

そのテストの最終段階を受け持つのが治験です。数多くのテストをパスした後、安全性や有効性の最終的な確認を行うために、ボランティアの方々に新しいクスリの候補を使用してもらい、データを集めます。そして、厚生労働省の承認を得るために申請されます。

当院では治験審査委員会が設置されています。

病院で治験を実施するためには、治験審査委員会から承認を受けなければなりません。治験審査委員会は治験の計画が倫理的に科学的に妥当であるか、参加する方の人権・安全・福祉が保証されているかを厳密に審査しています。倫理的・科学的に疑問がある治験は許可されませんし、この許可無しにはどの治験も始めることができません。





『いきいき市民健康講座』のご案内

当院の『かまくら乳がん甲状腺センター』のセンター長であり、乳がんに対する啓蒙活動を精力的に行なっている乳腺外科医師土井卓子先生が総合司会を行ない、“女性の健康～ホルモンと上手につきあうコツ～”について講演会を開催いたします。

当日は、講演会やダンスパフォーマンスの公演、土井先生との対談＆質問コーナーもあり内容が充実しております。参加費無料でどなたでも参加できますので、お気軽に参加してみてください。

(事前予約が必要です。当日参加も可能ですが会場の座席に限りがありますので、入場をお断りする場合があります)

参加費無料

女性の健康～ホルモンと上手につきあうコツ～

開催日時：平成22年4月11日（日） 午後1：00～3：40

会場：横浜市教育文化ホール 横浜市中区万代町1-1 横浜市教育文化センター2階

交通：JR・関内駅南口（大船寄り）下車 徒歩3分

市営地下鉄・関内駅（出口1）または伊勢佐木長者町駅（出口2）下車 徒歩5分

総合司会 土井 卓子 先生（湘南記念病院 かまくら乳がん甲状腺センター）

対談 「乳がんと言われて」 増野 恵美子さん 土井 卓子先生

講演 講演1 「女性の体とホルモン」 対馬 ルリ子 先生（ウイミンズ・ウエルネス銀座クリニック）

講演2 「ホルモンと乳がん」 加藤 直人 先生（横浜南共済病院 乳腺外科）

公演 「ダンスパフォーマンス ～スペイン舞踊～」 増野 恵美子さん（小松原庸子 スペイン舞踊団）

《対談＆質問コーナー》 司会 土井 卓子先生

【申し込み先】 いきいき市民健康講座事務局 宛

TEL：0120-100-696

FAX：045-225-6162

e-mail: ikiikikenkokouza@yahoo.co.jp

【申し込み期間】 TEL：3/1～4/9（月～金 AM9：00～PM6：00）

FAX：4/9まで



湘南記念病院グループクリニック

湘南記念小坪クリニック

院長：田嶋 博雄

249-0008 逗子市小坪3-2-1

TEL：0467-60-0321

FAX：0467-60-0322

診療科：内科・外科・整形外科・
眼科・リハビリテー
ション科・訪問診療

湘南記念鎌倉クリニック

院長：石田 尚志

247-0056 鎌倉市大船2-17-10

TEL：0467-47-3189

FAX：0467-47-3161

診療科：
訪問診療（内科・麻酔科）

湘南記念逗子クリニック

院長：渡辺 有造

249-0001 逗子市久木8-9-15

TEL：046-871-8216

FAX：046-871-8313

診療科：訪問診療（内科）

クリニックでは『訪問診療』を積極的に行っております。『訪問診療』の内容についてお聞きになりたい場合は、お気軽に各クリニックに直接ご連絡してみてください。

湘南記念病院やクリニックのことをもっと詳しく知りたい場合は是非、当院のホームページをご覧ください。

⇒[http：www.syonankinenhp.or.jp](http://www.syonankinenhp.or.jp)



編集後記

『きずな3号』が完成しました。定期的な発行ができておりませんが、今後も旬な内容で発行して行く予定ですのでお楽しみください。

病院のこんな事・あんな事など知りたい情報がありましたら、投書箱へ！

今後も『きずな』をご愛読いただきますようによろしく願いいたします。

（広報委員会）



健康コラム

眼科からのお知らせ ～白内障手術について～

当科は常勤医師中村嘉代により、横浜市立大学附属病院白内障担当医師と連携して、白内障手術をおこなっております。手術に際しましては、最新の設備を誇り、質の高い医療の提供と患者様に満足していただける説明を心がけております。ご希望に応じて、日帰り手術、1泊2日または2泊3日入院の手術が可能です。